

# アダム家庭

FilJap 小学生部

# \* 目次 \*

- カインとアベル
- アダム家庭での教訓

## ■カインとアベル

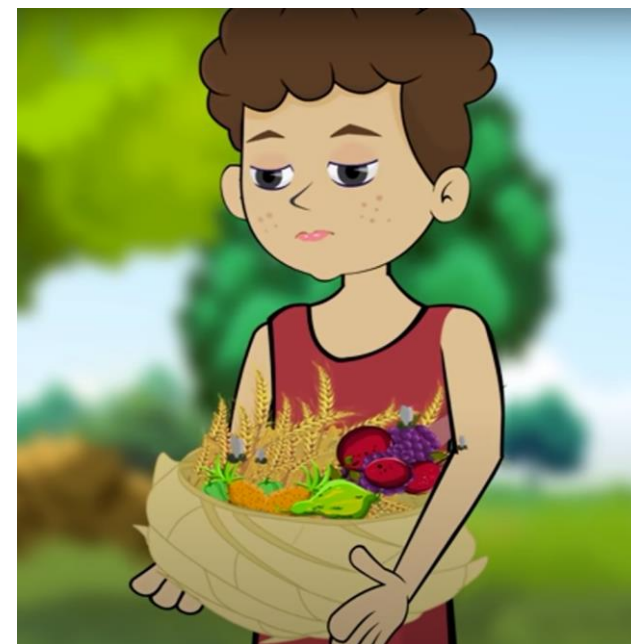
3

神様は、アダム家庭が墮落した後、その家庭を救うために力をつくされました。本来アダムとエバは、神様だけにはべらなければなりませんでした。しかし彼らは墮落して、神様とサタンのどちらにも対するようになったのです。そのため神様は、アダムとエバに直接、救いの摂理をなすことができませんでした。それでアダムとエバの二人の息子を、それぞれ、神様の側とサタンの側に分けて、摂理されるようになりました。

アダムとエバは、長男のカインと次男のアベルを生みました。ある日、カインは畑でとれた穀物を供えものとしてささげ、アベルはひつじの初子



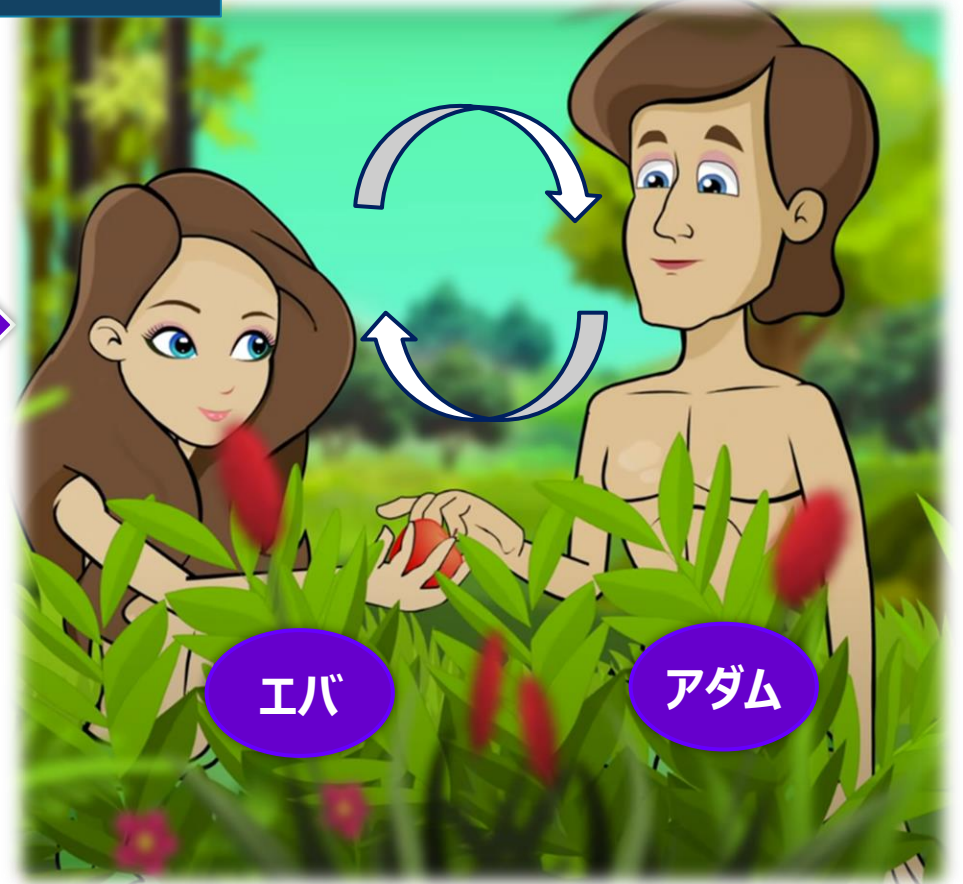
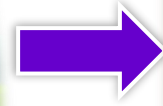
と肥えたものを供えものとしてささげました。ところが神様はカインの供えものは受けられず、アベルの供えものだけを受けられました。神様はなぜ、カインの供えものを受けられず、アベルの供えものだけを受けられたのでしょうか？カインがにくかったからでしょうか？その理由は、アダムとエバの墮落から始まります。



エバはまず、天使と不倫な愛の関係を結んだ後に、アダムとも、時でない時に愛の関係を 4 結びました。エバは、二回にわたって墮落したのです。一番目の墮落は、本来の相手ではない天使との関係であり、二番目の墮落は、本来の相手であるアダムとの関係でした。そのうち、二番目の墮落の方が、まだ許される行為でした。

だらく②

だらく①



神様は、救いの摂理をなされるために、善の側と悪の側を分けられました。神様は、一番目の愛の実として長男カインを悪の側に立たせ、二番目の愛の実として次男アベルを善の側に立たせたのでした。神様が、カインの供えものを受けられなかったのは、悪の側を相手にすることができなかったからです。

アベルは、神様のみ言どおりに、供えものをきちんとささげたので、信仰の基台を立てる中心人物になることができました。あとはカインとアベルが一つになり、実体の基台を立てなければなりませんでした。サタン側のカインは、誤った心を捨てて、アベルを愛することにより、神様の前に出て行かなければなりませんでした。

しかしカインは、神様が自分の供えものを受けられなかったことに腹を立てました。そのとき、神様がカインをたずねてきて、諭されました。「なぜあなたは憤るのですか、なぜ顔を伏せるのですか？正しい事をしているのでしたら、顔をあげたらよいでしょう。もし正しい事をしていないのであれば、罪が門口に待ち伏せています。それはあなたを慕い求めますが、あなたはそれを治めなければなりません」

神様はそのように、カインが罪を退けて、アベルと仲良く一つになることを望まれたのでした。しかし



カインは、野原で弟アベルを殺してしまいました。神様の言いつけを心にきざまずに、いきどおって、6  
大きな罪を犯してしまったのです。このようにカインがアベルを殺すことによって、アダム家庭で立て  
ようとした実体の基台は立てられませんでした。その結果、アダム家庭を中心とした復帰摂理は失  
敗に終わってしまったのです。

アダムは130歳のときに三番目の息子であるセツを  
生みました。セツはアベルに代わって、神様の側の、  
より善なる氏族を繁栄させました。

## ■ アダム家庭での教訓

私たちは、アダムとエバ、カインとアベルを中心とした  
アダム家庭を見ることで、神様の救いの摂理についての  
計画を知ることができます。

第一に、神様のみむねは、必ず神様の責任と人間の責任が合わさることによってのみ、なされる  
ということです。

第二に、みむねをなそうとする神様の計画は実現するときまで終わらないということです。アベルが



死ぬと、神様はアベルの代わりにセツを立てて、新しい摂理を始められました。神様のみむねは 7  
永遠に変わらないのです。

第三に、カインはアベルを通じて、神様の前に出ていかななくてはならないということです。カインは神様の立場でアベルを愛さなければならず、また謙遜な姿勢で、アベルを通じて神様のみむねを知らなければなりませんでした。そうすることで、たがいに一つになり、実体の基台をなすことができたはずでした。

しかし、カインがアベルを殺すことで、アダム家庭を通じて人間を救おうとされた神様のみむねは、長い間、延長されるようになり、その間、人間は救いを待たなければなりませんでした。



**引用文献：**  
**『はじめての  
原理のおはなし』**